



# **第二回 スタートアップ育成分科会 新規事業創出支援として実施し得る施策例のご提案**

2022/11/07

TAKAO AI Ltd.

代表取締役 板橋竜太

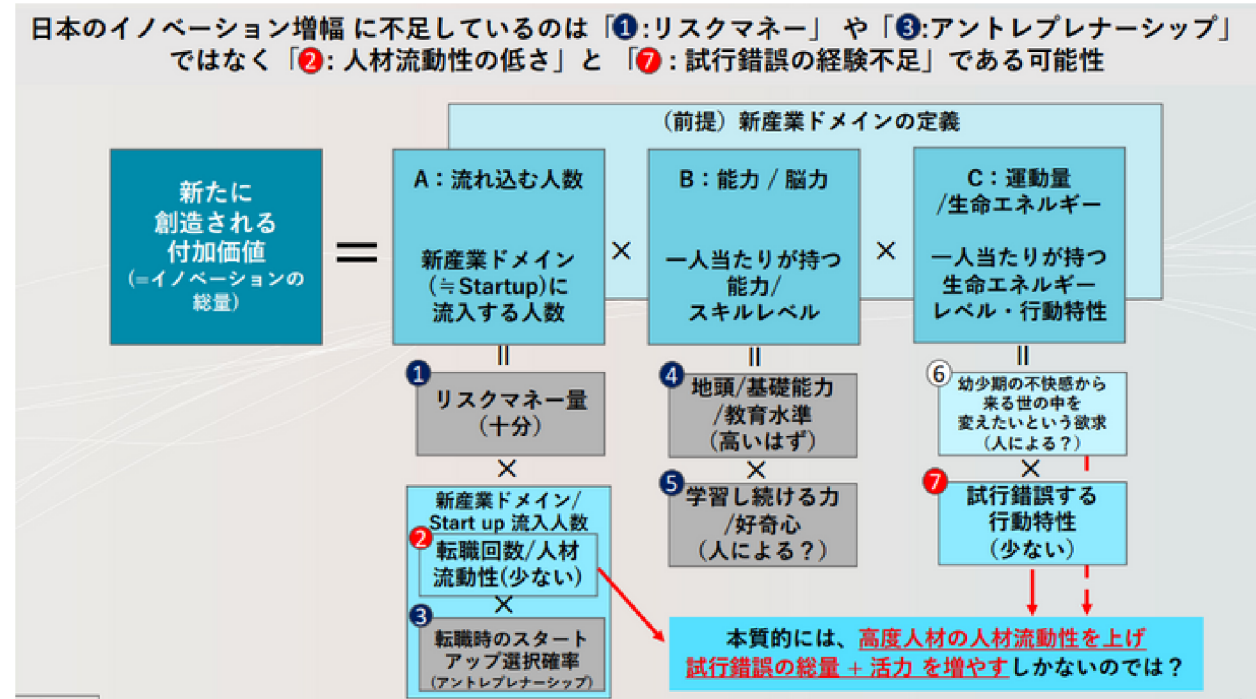
# 1大学1IPO運動について



(4) 1大学1IPO 運動

○ 大学発のスタートアップ創出を後押しするべく、研究大学において、「1大学につき数十社起業し、1社は新規上場を目指そう」といった運動を展開する。

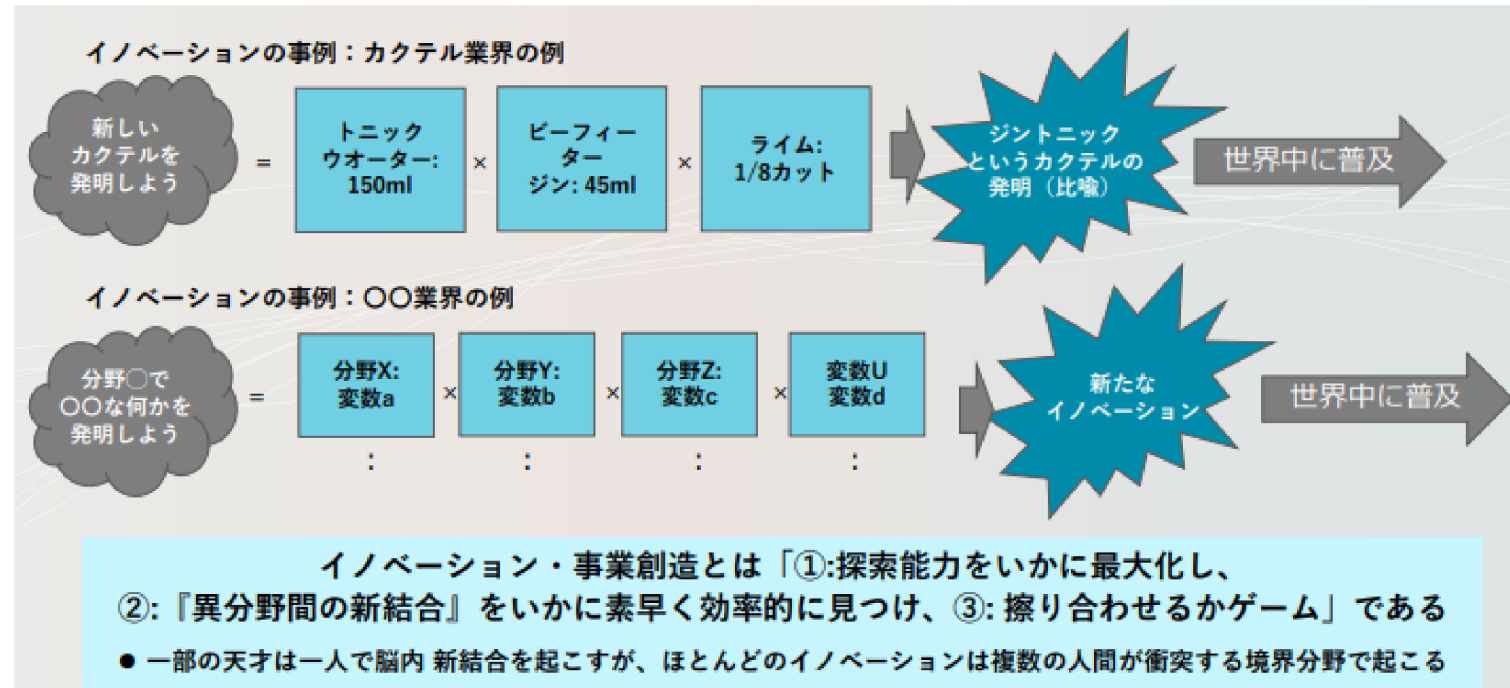
## 1大学発ベンチャーを支援する意義



大事な問題点: **高度人材の人材流動性が低い**

1. 経験ある人材市場の流動性を上げる
2. 学生のキャリアパスとして、「スタートアップを作る・手伝う」が候補に入る状況を作る

→大学発スタートアップは人材流動性の問題から独立しており支援する意義が大きい



特に技術分野の「異分野感の結合」が日々生まれているであろう環境

→国内大企業の受注案件

高い技術と"無限の流動性"を持つ大学研究室と社会との密接度向上(→社会実装的共同研究)を活性化

→「異分野感の結合」が、大学を通してスケールできるものになる

# 1大学1IPO運動について - ご提案



## 2. 必ずしも「IPO」を目標に据える必要はないのでは？

スタンフォード大講義 - "Trends Among Japanese Startups", 2018

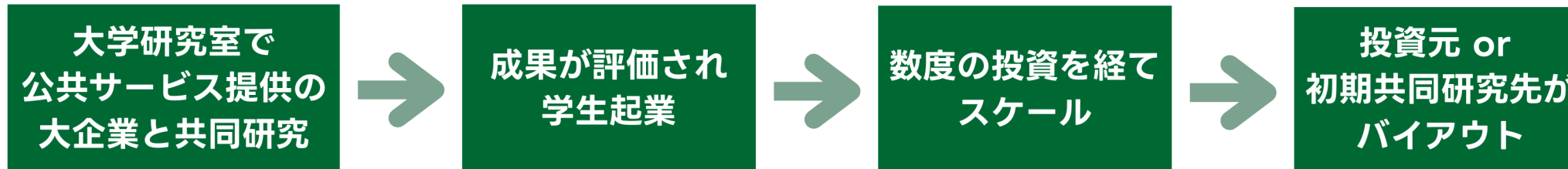


<https://www.youtube.com/watch?v=CD3T--C1wn4>

国際的に見ると日本のスタートアップのIPOは比較的早期でも行われる

→それが可能なのは悪いことでは無いが、必ずしもゴールをIPOと限定する必要はない

想像し得る起業→EXITパターン：



バイアウト or 増資を繰り返し事業規模の拡大・グローバル展開していく高い目標も視野に入れたい

## 3. 学生の立場に立ち、何が起きれば彼らが事業を始めるか & 国家施策としてできることを整理

大学生にとって、

- 何が起きたら起業しようと感じるか？
- 何があれば(or なければ)実行に移してくれるか？

&& 国家施策として出来る事

(エンジニアリング畑から学生起業した一つの所感) → 徹底的に起業を「手軽」にする環境整備 (チャレンジの開始に壁を作らない)

例：エストニア →チャレンジする人数の最大化を徹底  
インターネットを通してのフォーム作成だけで登記が完了、諸費用も4万円以内  
海外国籍でもネット上の申請だけで会社ができる

# 1大学1IPO運動について - ご提案



## 4. 「異分野間の結合」を加速するために出来るかもしれない事

日本の公共サービス・インフラの完成度と規模は  
世界で類を見ない

「オープンイノベーションの推進」大事だが、「その前段階の起業ポテンシャルを持つ人材」育成に出来ること？



例：(技術的側面から)日本の公共サービスに  
民間/個人開発者がアクセスできる窓口の整備

例：東京公共交通オープンデータチャレンジ  
<https://tokyochallenge.odpt.org/>



- 個人としての開発者 (含学生) は非常にカジュアルに、事業化ポテンシャルのあるモノを開発するパワーを持つ存在
- 日本の公共サービスに対するアクセスをオープンにすることで好奇心に満ちた技術者が自らの手で「異分野間の結合」を発生させていってくれる可能性

個人としての技術者に対する公な立場としての情報発信の参考例：  
登大遊氏「テクノロジーマップ、技術カタログの在り方について」  
[https://www.digital.go.jp/assets/contents/node/basic\\_page/field\\_ref\\_resources/b1ae707f-8dfa-4b40-8003-e8eec74f6a02/32230edd/20221003\\_meeting\\_technology\\_based\\_regulatory\\_reform\\_outline\\_05.pdf](https://www.digital.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/b1ae707f-8dfa-4b40-8003-e8eec74f6a02/32230edd/20221003_meeting_technology_based_regulatory_reform_outline_05.pdf)

東京公共交通オープンデータチャレンジについて

